

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称
平成28年度第4回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 平成29年2月17日(金)午前10時から午前11時50分まで
- 3 開催場所 美里町健康福祉センター 2階研修室
- 4 会議に出席した者
 - (1) 委員
小野俊次委員、角田フミコ委員、伊藤秀司委員、千葉久美委員、
浅野恵美委員
 - (2) 事務局
青木正男、佐々木さとみ、相原浩子、高橋ひろみ、横山太一、小林公美
 - (3) その他
- 5 議題及び会議の公開・非公開の別
議題
2/2「第1回宮城発これからの福祉を考える全国セミナー」報告
地域における情報交換の仕組み等の推進について考える
情報交換
会議の公開・非公開の別
公開
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の人数
0人
- 8 会議資料
別紙のとおり

9 会議の概要

(1) 議題の審議結果又は今後の対応

- ・美里町がどのような町になりたいかというビジョンが必要である。
- ・住民が住み慣れた地域で生活していく為の話し合いとそれを支援する行政の体制づくりと住民の意見を施策化する場が必要である。
- ・介護保険の事業所等にも、地域の中の事業所ということを知ってもらいながら一緒に活動できるようにしていく。
- ・生活支援はサービスを作ることではなく、生きがいになることを目指してやることが大事。元気な高齢者が高齢者を支援するという仕組みや、地域の見守りの仕方を工夫していけると良い。

(2) 詳細な意見

佐々木課長補佐	只今より、平成28年度第4回美里町生活支援体制整備協議会を開催します。はじめに健康福祉課長よりごあいさつ申し上げます。
青木健康福祉課長	忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。この協議体も第4回目をむかえることができました。今までの経過を振り返りながら、来年度以降の計画について検討していければと思います。よろしく申し上げます。
佐々木課長補佐	議事録の署名については、角田委員と浅野委員にお願いします。それでは、議事に入ります。1) 2/2に開催された「第1回宮城発これからの福祉を考える全国セミナー」について報告をしていただきます。セミナーには、角田委員、千葉委員、浅野委員、相原技術主幹で参加をしました。千葉委員より報告をお願いします。
千葉委員	報告をさせていただきます。まず、このセミナーがなぜ宮城発なのか率直な疑問がありました。総合事業や生活支援体制整備事業は、各市町村で取り組んでいるところですが、宮城県は震災で大きな被害を受け、地域で様々な支えあいや活動が行われています。これらの活動は、今後必要な支援として全国的にも注目されているということでした。今後、介護保険制度だけでは支えきれないことが予測され、国としては、地域での住民主体の支えあいを強化させたいという考えがあるのだと思います。セミナーの第1部では、被災地での活動のディスカッションがありましたが、地域での支えあいでの苦労や喜びを聞くことができました。第2部では、すでに生活支援コーディネーターを配置して支援している市町村の取り組みについて発表があり、地域性を感じました。実際に生活支援コーディネーターとして活動しているのは、地域包括支援センターの職員がほとんどで、何も無いところから立ち上げる苦労や活動を進める中で感じられた楽しさ、喜びを聞くことができました。私としては、生活支援コーディネーターは市町村職員だからこそできていると感じました。また、地域づくりを目指すには、継続した取り組みが必要ですが、今後、誰が担っていくのか、職員が移動になった場合の課題検討が必要です。生活支援コーディネーターを配置すれば解決するのではなく、その人を地域に巻き込んでいくことが重要です。そして、生活支援コーディネーターには

	<p>地域を動かせる、指導的な力があること、人を引き付ける人格が必要だと感じました。第3部では、行政は目標設定と管理する立場にあり、地域の役割分担は変わっていくもので、個別だけでなく、全体の舵取りをする地域マネジメントやそのプロセスが重要だという話がありました。現状把握と目標設定を行うことは、最も重要だと思います。美里町の10年後、20年後のビジョンをもち、課題は何か、専門職だけでなく、地域を巻き込みながら、目標について時間をかけて話し合うことが必要です。また、事業所は、実績だけを考えて急いで取り組んでは前に進めないという話もあり、事業所として考えさせられるところもありました。協議会の開催が先で、目的が後になっているのが現状ですが、課題を把握し、この先を予測する力をもつことが今の課題だと感じました。</p>
佐々木課長補佐	<p>ありがとうございました。角田委員からも感想をお願いします。</p>
角田委員	<p>美里町生活支援体制整備協議会に参加をしてきて、漠然と理解はしていたものの、何をしたら良いのかという疑問がありました。セミナーに参加をして、何を求めているのかは大体分かりましたが、やはりどうしていくべきかという思いがあります。介護保険、医療保険が破綻しそうで、行政にも限界がある中、高齢者はどのように支えあったら良いのか、その道筋を市町村ごとに地域でつくっていくことが必要だと理解しました。そのために、美里町はどのような町になりたいのかというビジョンが必要だと思います。地域には、ボランティアややる気のある人、様々な自治会等の活動がありますが、行政区で状況は異なります。行政区長を中心に何が出来るのかを考えていくのに、共通の認識があると良いと思います。漠然としたものではなく、分かりやすいものを考えてほしいです。また、生活支援コーディネーターについては、手助けしてくれる人ということが分かりました。生活支援コーディネーターは何かを作り出すのではなく、地域でのネットワークづくり等を一緒に考えてくれる人だと理解できました。</p>
佐々木課長補佐	<p>ありがとうございました。浅野委員からも感想をお願いします。</p>
浅野委員	<p>地域のボランティアから言われたことで気になったことがありました。地域住民が良いと思って自発的に取り組んだことが、事業所にあてにされる、事業所はサービスを利用する金額や決まりがあるので、サービスでできないところを地域活動で補おうとし</p>

	<p>ていると話していました。地域での支えあいは、サービスを補うものにもなりますが、地域住民が納得して取り組まないと、負担につながります。住民の共感が得られるようにすることが必要です。社会福祉協議会では地区社会福祉協議会と一緒に4年前から情報交換会をしてきましたが、先日の合同報告会では、準備していた資料が足りなくなる程の地域住民が集まりました。地域住民は、何とかしたいという思いはあっても、どうしたらよいかという迷いもあります。少し背中を押したり、目指すものを示すことが必要だと思います。今後、話し合いの中で目指す方向を見つけていくことも大切ですが、多くの人と未来予想図を描き、共有しながら、できることから取り組んでいけると良いでしょう。今までも、社会福祉協議会や地区社会福祉協議会では、様々な企業や団体の力をかりながら、生活支援につながるボランティアや地域活動をしてきました。新しいことを始めるだけでなく、取り組んできたことに意味づけをしながら、より意識的に取り組んでいけるよう働きかけていきたいです。</p>
佐々木課長補佐	<p>3人の話を聞き、ビジョンの設定や連携の大切さを感じました。次に、2)地域における情報交換の仕組み等の推進について考えるに移ります。</p>
相原技術主幹	<p>今までの協議会で話し合ってきましたが、地域の皆さんと協議したり、意見を町の政策につなげていくための体制づくりについて検討したいと思います。</p> <p>~ホワイトボードを使用して説明~</p>
浅野委員	<p>地域の課題は、高齢者だけでなく、課題も一つだけではないですね。</p>
角田委員	<p>健康福祉課だけの課題ではないので、他の課とも課題をすり合わせをし、町全体として何をすべきなのか、共有していくと良いと思います。そして、行政区長を通したり、様々な会の中で分かりやすく地域に情報発信してほしいです。</p>
小野委員	<p>町の総合計画は策定されたので、実現するにあたり、様々な会議が行われていくと思います。多くの課題はありますが、まず、協議会を立ち上げたことは素晴らしいことで、今後、横のつながりを作りながら情報共有、情報交換できると良いでしょう。高齢者や介護のことは地域包括支援センターに相談できる関係ができており、困った時に他の機関につないでくれるので、その関係だけでも地域住民としては安心です。</p>

伊藤委員	<p>情報の整理は大切だと思います。地域住民が、家族状況を知っている町長に相談したところ、シルバー人材につないでくれたので、経済的にも大きく困ることなく生活環境の改善につながったことがありました。生活支援の相談には、経済的なことや生活環境の問題が大きいと思います。どこが窓口になっても、困りごとの情報が入った時は、その情報を整理して、関係機関につなぎ、改善が難しければ皆で協議していけると良いと思います。</p>
小野委員	<p>多様な困りごとに対する相談先をまとめたものがあると良いですね。</p>
相原技術主幹	<p>行政がどのようなビジョンをもつかで、今ある資源の活用方法が変わってくると思います。何が必要で、どう進めていくかを検討することは行政の役割であり、ビジョンが明確になることで地域でも協議が可能になるのだと思いました。</p>
浅野委員	<p>今までの介護保険制度では、ケアマネジャー等による個別支援でしたが、住み慣れた地域で生活し続けるには、社会参加も重要です。資料の木の絵（図3）にもありますが、お茶のみや住民主体の支えあい活動等地域でしていることは沢山ありますが、ビジョンが見えない状況では、制度を活用したサービスや制度外で行う生活支援サービスが見えてこないと思います。支援のプロや地域のプロがいても、つなぐプロがうまく機能しない状況も考えられます。また、情報の整理、話し合いの場については、地域包括ケア会議のあり方についての検討が必要だと思います。制度につなぐだけでなく、その人が住み慣れた地域で生活していくための話し合いと、それをバックアップする行政の体制づくり、住民の意見を政策化する場が必要だと思います。</p>
相原技術主幹	<p>行政の立場、社会福祉協議会の立場、それぞれの立場でできること、把握できる情報があると思います。今後、地域の情報や課題を吸い上げ、地域の方たちと顔が見える関係をつくっていくためにも、来年度以降、生活支援コーディネーターの配置を考えています。生活支援コーディネーターは、地域住民全ての方を対象にし、地域のことを一緒に考えてくれる人です。気にかかる人をつないだり、地域の会議に参加したり等、役割は様々です。来年度からは、地域に根差して活動してくれている社会福祉協議会に業務をお願いし、一緒に取り組んでいきたいと考えています。</p>
浅野委員	<p>社会福祉協議会では、生活支援コーディネーターと協議体については、前向きに取り組む考えでいます。社会福祉協議会の職員</p>

	<p>は生活支援コーディネーターの養成講座を全員受講しています。生活支援は、地域づくりなので、今まで社会福祉協議会が取り組んできたことだと思いますが、今後、より充実させるためには、地域住民の理解と協力が必要です。そのために、啓発にも力を入れていきたいと思っています。</p>
相原技術主幹	<p>今後、役場職員の理解も必要であり、協議体メンバーと一緒に勉強をしていけると良いと考えています。</p>
浅野委員	<p>今後協議体をどうしていくかですが、協議会の人を増やして部会を作る等もいいかと思っています。</p>
相原技術主幹	<p>町のビジョンは包括だけではなくて、皆で考えていけるとよいかと思います。</p>
角田委員	<p>住民が安心して暮らせなければならない。その上に色々なものを築いていくのだと思います。</p>
相原技術主幹	<p>この会議の本体を、宮城県は県社協にお願いをしてやっている。そこからアドバイザーを派遣してもらったりできるようになっている。来年度1回目はそこを活用しながらやっていきたい。</p>
角田委員	<p>他の民生委員からも、どこまでやっているのかと聞かれている。</p>
相原技術主幹	<p>千葉委員に事業所の代表で出席してもらっているが、事業所も社会資源なので地域の中の事業所だということを知ってもらいながら一緒に活動できると良い。地域の方と一緒に活動すると、従業員の方を覚えて貰ったり、どういう施設かを理解してもらったり出来るが、今はそういう事業所ばかりではないのでやっていけると良い。</p>
浅野委員	<p>住民からすると、急に建物が建ち、何だろうということになる。事業所さんからも歩み寄ってもらえるようになると良い。笹館行政区は地区で麻雀をやっているが、そこに事業所さんが来て麻雀をする前に体操をしたり勉強をしたりして、ワンコインでお茶飲みながら麻雀をしている。事業所と一緒にする地区も出てきました。社協の地域福祉笑学校で事業所さんが認知症の勉強の講師になったりすることが出てきた。地域住民と事業所やシルバーさんと接点を作ることは大事かと思っています。先日福祉事業所関連の職員が夜勉強会をしました。障害や高齢等をやっている職員がグループになって情報交換をしました。せめて福祉のところはつながりが必要だと思いました。新春福祉の集いもやってみました。町長、議長に来てもらい事業所さんにも来てもらいました。美里町には認可外保育所6園ありますが、6園で運動会をしております。</p>

	<p>公立の保育所には運動会も遠足もあるが、認可外には無いため、保護者が嬉しそうに写真を撮ったりしていました。その姿を見ると、町の中でも保育の環境が違います。若い人達もコーディネーターとして地域づくりを担ったりするよう育てていかないと、高齢者は安心して生活出来ないと思います。児童のところも出来ればと思う。</p>
角田委員	<p>生活支援となると高齢者だけではない。高齢者は介護保険での支援等色々あるが、障害者だと施設に入るまでではないが孤立して家から一步も出ないという人もいる。親は自分が死んだらどうしようと心配している。施設も重度でない限り入れないので、福祉は高齢者だけではなくて、そういう人にも寄り添っていかねばならないのではないか。</p>
相原技術主幹	<p>この生活支援事業を進めていくイメージですが、人の事だけではなくてその地域がどうであるかを見て、足りないものは何かを考えて有るものは生かしていくことかと思います。町でもビジョンを考え、社協さんの力を借りながら進めていければと思います。</p>
浅野委員	<p>山の神ボランティアの取組みですが、自分達も出来てあと5年と言ってます。そうなると後継者を考えたくりますが、町全体で問題があるのであれば、制度化していくことを考えていかねばならない。いつまでも町民ががんばり続けるものではない。</p>
角田委員	<p>どこかの地区で民生委員がサロン立ち上げましたとか聞くと、プレッシャーを感じます。</p>
浅野委員	<p>サービスを作るのではなく、それぞれが生きがいになることを目指してやるのが大事です。</p>
角田委員	<p>地域の活動もそういうものがあるから、長年皆さんやっている。</p>
浅野委員	<p>地域づくりは、あきらめないで少しずつ積み重ねていくこと自体が地域づくりなのではと思います。社協では、企業さんで見守りのマグネットシールを福祉事業所40位と最近第一フーズさんや瀬川勝雄商店さんも入ってくれて、車に貼っています。フードバンクにも協力いただいています。社協だけでは出来ないことが、企業さんと一緒にやることで大きな動きになると思います。マグネットシールも体制整備として町あげてやっていますとすることで、つながりが出来るのではないかと思います。</p>
千葉委員	<p>地域に根差して何が出来るかを考えていますが、介護保険事業所はある程度収支がないとやっていけない。総合事業をやらない</p>

	<p>事業所が出てきて、露頭に迷う利用者がでてくるのではないかと 思っている。ヘルパーの募集をかけても、難しい仕事なので申込み がない。軽度者は専門でないヘルパーさんという制度だが受け入れ がなく困っている。そこが事業所の課題となっている。</p>
浅野委員	<p>社協にはボランティアセンターがあり、ボランティアしたいと 人が来るが、ボランティアして欲しいという人は来ない。事業所 からも依頼が来ません。ボランティアセンターに相談していいと いうこと自体が分かってないのだと思います。</p>
相原技術主幹	<p>ケアマネジャー一人ひとりが孤立していて情報を持っていな い。</p>
浅野委員	<p>あくまでもボランティアなので、主体性が必要になる。</p>
千葉委員	<p>介護計画の中では難しいということですね。</p>
浅野委員	<p>地域づくりの難しさで、早めに分かっていたら、その団体に説 明をして検討してもらえないかを聞くことができる。1回2回の 会議では決まらないので時間がかかる。 地域福祉は住民主体なので、住民が主体にやることが法律に書か れている。ボランティアについては今後ケアマネジャーが勉強で きる機会があるとよい。</p>
相原技術主幹	<p>ゴミだしと灯油入れは相談が多い。</p>
千葉委員	<p>実際ボランティアさんをお願いしている人はいない。近所の人 にお手伝いしてもらうことはあるけれど、ボランティアさんを活 用して何かをしてもらっている人はいない。ゴミだしが区長さん にはまずお願いするが、その人だけ特別扱い出来ないからと言わ れることがあり、地域性がある。もめる時がある。</p>
浅野委員	<p>そこがコーディネーターの出番だと思う。派遣型ではなく、私 達が考える地域支援は隣近所です。そして仕組みとしてある見守 りの方が灯油入れのお手伝いをしてもいいのではと思います。灯 油入れボランティアじゃなくても、地域の中でできればいい。サー ビスを作るのではなく、そういう地域を作ることであることがあ ると思う。今ある見守りだったり、ボランティアセンター等 を活用すると災害時もいいのではと思う。</p>
相原技術主幹	<p>ケアマネジャーがそこを作っていくのは難しいので、この会議 だったりコーディネーターだったり、社協さんの力を借りながら 検討していけると良い。</p>
浅野委員	<p>情報交換会の時にそれを話してもらおうといい。</p>

相原技術主幹	有償のやり方を考えることと、隣近所でやる方法と両方考えられるといい。
浅野委員	山の神ボランティアという組織だったり、老人クラブだったり、有るものを使って元気な高齢者が手伝うという仕組みでいいのではないか。
小野委員	見守りに全部含めるといい。
相原技術主幹	介護保険制度も年度で変わるので、皆さんと勉強しながらやっていけるといいです。 今日はこれで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

年 月 日

委員 _____

委員 _____